
光と影

樹梨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

光と影

【Nコード】

N5297D

【作者名】

樹梨

【あらすじ】

たまたま告白した女子中学生と男子中学生の恋物語

第一章（前書き）

いつからだろ・・・！？
こんな気持ちになったの・・・！？

第一章

いつからだろ・・・!?

こんな気持ちになったの・・・

でも、あたしは頑張つてあなたを探し出すからね・・・

第一章 出会い

中一の時・・・

あなたに思いを抱きながら始まった中学校生活。

いろいろな悩みがあつたけど、親友の華魅はなみと凜心りんこが

いつも悩みを聞いてくれた。

その時は「恋」なんて言葉はなかった。

恋に目覚めたのは、二学期からだつた。

それから敬けいというクラスの男子が気になりだした。

華魅や凜心はもちろん、未麗みれいや陸りくや

絵璃えりにも悩みを聞いてもらった。

二学期の半ばの合唱コンで出会いは起きた・・・

第二章 告白

たまたま、絵璃がふざけ半分で敬がいる前で、

「樹梨は、敬の事が好き」

とかいいだした。

とっさにあたしは、

「違うからね！！誤解しないでよっ！！」

と言ったが絵璃は、ニヤケて、

「本当は好きなくせに！！あたしが敬に気持ちを聞いてあげるよ！！」

と言つて絵璃は敬のほうへ行つた。

あたしはその絵璃の姿を見ているだけだった。

数分後・・・

絵璃が戻ってきた。

結果を聞くと・・・

「敬の気持ちは少し両思いだつてゝゝ！！よかったね！！あと少し時間あるし告つてみれば！？」

あたしは、

「無理だつてばゝ！！」

と言いつつも屋上入り口の階段に行つた。

ここは、絵璃が指揮を取つて敬の耳下で、

「樹梨が好きつて！！どうする！？」

あたしはその会話を見ていた。すると敬が、

「ちよつと考えてみるから待つて」

と言ひ音楽室の中に入つていった。

練習が終わり、また絵璃と一緒に敬のもとへ急いだ。

こんどはあたしが、

「あたしの事好き！？」

と聞いたが、返事がない。

数分後・・・

やっと敬が口を開いてくれた。

すると敬は、

「いいよ！付き合う！」

と言つてくれた。

やっ た ～ ～ ～ ！ ！ ！ 生まれて初めて告白に成功した！！
あたしは、絵璃と手を握りぴょんぴょん跳んだ。
そして今日あった事を華魅と凜心に報告した。
「よかったね～！ やつとこれで独り身脱退だね～！」
と凜心。
今、凜心は四組の上^{かみ}つて男子に片思い中だ。
ウキウキしながら月曜日を待った。

第三章 彼氏

月曜日、いつも通り学校に行くと、未麗や陸が居た。
早速あたしは報告に未麗たちのところへ向かった。
そして、

「未麗～！！ 陸～！！ ビックニュースだよっ！！」
すると、未麗が

「ええ～～～！！ 何何！？」

「実は、あたし敬と付き合う事になったんだ！！」

「よかったじゃん！！ これからもがんばれ！！」

と、言ってもらって嬉しかった。

移動教室の時あたしは、敬の机の上にアドを書いた紙を乗せた。
その異変に気づいた高太が、

「敬！ 樹梨から手紙貰うのはじめてじゃん！！ どうしたの！？」
すると、敬は、

「別に」

と言って外へ行った。

高太があたしに、

「おまえら何かあっただろ！！」

「うん。付き合ってるよ。」

「ええ〜嘘つけ!!」

「嘘じゃないってばあ〜!!」

といって彼氏生活一日目が終わった。

そんな浮かれているあたしに事件が起こった。

たまたま凜心から貰った手紙で・・・

第四章 手紙

ある日、普段と変わらない日だった。

これまでみんなには、敬と付き合ってることは秘密にしていた。
だったけど、友達の由香ゆかからの報告でいっきに噂が広まった。

手紙の内容は、あたしと敬が付き合ってる事と、凜心が上に片思い
していることだった。

たまたま3階に行くと、ある友達から、

「樹梨じりって敬と付き合ってるんでしょ!？」

「うん。付き合ってるよ。」

と正直に答えた。

帰る時にも凜心は華魅にその事を言っていた。

「噂で聞いたんだけど、あたしが上のこと好きって噂いるんな人が
知ってるて・・・」

「ええ〜!!まじ!?!あたしのクラスにはまだそんな情報きてないよ〜」

あたしも不安だった。

次の日・・・

いつも通り学校に行くと、佐藤結城が

「村上さーん！」

とか、

「敬！！」

などと、あたしに言ってきた。

あたし에게는、

「あいつ、まじでウザイ」

なんて思ってた。

凜心にも聞くと、凜心は

「上のことが好きっちゃる!?」

って言ってきたらしい・・・

あいつってなんであんなにおせっかいなんだろう・・・!?

自分にだって、彼女いるくせに・・・

「まあ、がんばれよ!!」

とあたしは心の中で応援した。

最近、陸が部活で忙しそうだったから聞いてみると、

「あたし、陸上で全国大会まで行っちゃったから猛練習してるんだ

♪」

「へえ〜! そうなんだ♪ 頑張ってるね!!」

「うん!! 頑張る!!」

と言って、陸は部活に行った。

あたしは独り言で

「敬はサッカー部だし、練習でも見に行くか♪」

と言って、凜心と華魅を連れて、グラウンドに行った。

敬がサッカーしてるときは、ものすごい輝いてた。

こうしながらもだんだんみんなは手紙のことを忘れていった・・・

第五章 年末年始

年も新しくなろうとしていた。

あしたは、1月1日だ。

あたしの中では、おいしいもの食べたり、福袋を買いに行く予定だった。

福袋を買いに行くと、人多くて大変だった。

ちゃんと買えたが、疲れがピークだった。

家に帰るとケータイに敬からメールがきてた。

内容は、

「あけおめ（*^|^*）」
だった。

あたしには、そのメールがとても嬉しかった。

新学期が待ちどろしかった。

第五章 新学期

新学期になった。

始業式が終わり、みんなは帰っていった。

あたしは凜心達と残って遊んでいた。

すると、ある友達が

「ねえ！村上さん！敬が吉田さんの事が好きって」
えっ・・・

あたしはその場を離れたかったが離れられなかった。
それを言っでどこかに消えていった。

凜心が

「嘘だよね・・・！？こんなこと・・・敬はそんな奴じゃないよ・・・」

「あたしもそう思う。だって普通だったら告白オッケーするワケないじゃん・・・」

二人から励ましの言葉を貰ったがあまり耳に入らなかった。

次の日・・・

昨日のことを陸や未麗に相談した。

「どうすればいいと思う!？」

「うん・・・男子にも聞いてみよっか!」

最近、班決めをして一緒になった、高太や速人^{はやと}、優斗^{ゆうと}に相談に乗ってもらった。すると速人が、

「そんな奴とは早く別れたほうがいいって。」

「うん。そうしろよ!」

「うん。でも直接言うのは嫌だし・・・」

「じゃあ、あたしが言ってきてあげるよ」

と言って敬のほうへ行った。

数分後・・・

「うん。わかった。って」

「ありがと」

「役に立って当然でしょ!困ったときは言ってね!」

「うん!」

今日あったことを凜心と華魅に言つと、

「ええ〜!!敬と別れたの〜!？」

「うん。たぶん吉田さんのこと好きだと思っし・・・」

「そつか・・・ってことはまた、樹梨は独り身だね！」
とワイワイ騒いだ。

家に帰って、敬にメールした。

「アンケート

1・吉田さんのことすき！？

2・別れたい！？別れたくない！？」
とメールした。

三日後に返事が返ってきた。

「アンケートの答え

1・吉田のことは好きじゃない

2・別れたくないだよ！」
ってきた。

まあ考え直してみるか・・・。

そして出した結論が

「うん。わかった！これからもよろしくね^|^」
とメールを返した。

第六章 再出発

また一から出直すことにした。

そのことを高太達に報告すると

「よかったね〜！」

や

「これからも頑張れよ！」

などといってくれた。

凜心や華魅も

「また樹梨は独り身脱退かよ！まあおめでと〜」
そうしてまた、彼氏生活が始まった・・・

あとがき

最後まで読んで下さってありがとうございます。
これからも光と影シリーズをよろしくお願いします。

第一章（後書き）

最後まで光と影を読んでくださってありがとうございます。
これからも光と影シリーズをよろしく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5297d/>

光と影

2010年10月10日23時23分発行